人れちれ始ンてをりますよ。

光子　まさかあんたがバラックを（笑ふ）

藤川　バラックだなんて勿体ない事を仰さる。それこそわたくしが十年の誠心誠意を（傾けた仕事でございます。あの病人の妹を十年も先生さまに見ていたゞきそなしたお禮だけにしては）

くらみの家の一軒

り上げるすのが当然でございますの、何方

そんな資力はおし、せめてわたくしの魂をみち

込みまして良いお家を（建てお上げゝ）

光子　それはさうです。良い家を拵へていゞくに越したことはありませんが、何方病人の（ガ）のうねえ。一日でも早くあの新らしい自分の家に入れて上げたいんだよ。（そつと秀作の寝巻をおしめ（縁側に近づいて）旦那そこぬれはとにお脱りなすつたのだ、もうこの冬をお越すことのどうか知らって、こまじんだ東京がまおすつた笹山先生もいつてゐなすつたんだよ。（光子かつ）ど眼をおふ）

藤川　へえ……そうそぬれはとれ御病気は